

事業計画書

事業名	ちいさな本の家
場所	沼津市東原651-99 地内
実施予定期間	平成28年7月16日～平成29年3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<ul style="list-style-type: none"> ・7月16日(土) <ul style="list-style-type: none"> おはなし会(ブックトーク(本の紹介)、絵本の読み聞かせ、わらべうた遊び) 準備 6月25日、7月2日、7月9日 対象 乳幼児以上 どなたでも ・7月23日(土) <ul style="list-style-type: none"> ひろさんの「あそぼーる」を作ろう(乳幼児用布製遊具をつくる講座) 対象 乳幼児のお父さん、お母さん(プレママ、プレパパも) 静岡市の小児科医 望月弘子さん考案の「あそぼーる」を作る 材料費として500円 ・8月20日(土) <ul style="list-style-type: none"> 夏休み工作会(はばたく鳥のモビールを作る) 対象 小学生、幼児と保護者 15組程度 準備 7月23日、8月6日、13日 材料費として 300円程度 予定 ・9月24日(土) <ul style="list-style-type: none"> おはなし会(ブックトーク、昔ばなしの語り、わらべうた、折り紙) 準備 9月10日、9月17日 運営スタッフによる 対象 どなたでも(シニア世代向けを考えています) ・10月22日(土) <ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんとお母さんのための、絵本とわらべうたの会 準備 9月24日、10月1日、10月15日 運営スタッフによる ・11月26日(土) <ul style="list-style-type: none"> 講演会「のはらうた」ができるまで 講師 童話屋出版 田中和雄氏 会場 サンウェル沼津会議室(予定) 小学校の国語の教科書でもおなじみの詩「のはらうた」について編集者から、おはなししていただきます。 ・12月10日(土) <ul style="list-style-type: none"> クリスマス工作会 紙バンドでクリスマスツリー飾りを作る 講師 愛鷹コミュニティ 紙バンド工作講座の講師 準備 11月11日、12月3日 ・12月24日(土) <ul style="list-style-type: none"> クリスマスおはなし会(絵本よみきかせ、ピアノと一緒に歌おう) 対象 どなたでも

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月14日（土） 新年おはなし会 （絵本よみきかせ、紙芝居、手遊び、歌遊び） 対象 どなたでも ・ 2月18日（土） 読書会 対象 どなたでも 準備 2月11日 ・ 3月18日（土） おはなし会 対象 子ども <p>日程未定 富士山自然史研究家、絵本かがくのとも作家で長泉町在住の菅原久夫氏と自然散策</p> <p>宣伝方法は、チラシを市立図書館、愛鷹地区センターに置いてもらう他、インスタグラム等、SNS を活用する。</p>
事業効果	<p>子どもも大人も、本をより身近に感じてもらい、本を通じた地域交流の場を構築していく。</p> <p>検証方法としては、利用者数、貸出冊数 による判断 また、アンケートによる利用者の意向確認を行う。</p>

<p>公益性</p>	<p>読書の豊かさを日常に取り入れてもらいたい、本を通じた地域の交流の場となること。庭先活用、昔遊びもできるようにする。</p>
<p>発展性</p>	<p>「小さな本の家」を多くの方に認知してもらうため、専門の講師による講演会を開き、より読書への意欲を高めるきっかけをつくっていただく。 将来的に、蔵書を活かして、学童保育や、保育所に出張おはなし会に行き、人形劇や絵本を楽しんでもらい、本に親しんでもらいたい。</p>
<p>地域性</p>	<p>主に、愛鷹地域のコミュニティの方が利用していただくことを想定しており、子どもの居場所になるばかりでなく、遊ぶ子どもにも高齢者が声をかけたり、遊びを教えたりするなど、庭先での世代間交流ができるような運営に取り組む。</p>
<p>必要性</p>	<p>地区センターにも図書館があるが、図書の貸し出しがメインであり利用者の交流が図れない環境となっている。 「小さな本の家」では、子どもや母親の居場所として、利用者の交流が深められる運営を目指しており、このような施設は当地域には存在していない。</p>
<p>先導性</p>	<p>東原ニュータウンの空き家を活用した「子ども図書室」であり、これからの空き家の有効活用の一つの手法であると考えている。 公共図書館との違いは、子どもが少しくらい声を出しても迷惑にならないことであり、読書と遊びを一体化した子育てが可能である。 また、図書館らしい造作にしたいので、絵本専用の書架（手製）を作り表紙を見て絵本が選べるようにした。 司書、県教育委員会子ども読書アドバイザーが本の選書を行って行く。 読書文化の発信地になれば、と思う。</p>
<p>継続性</p>	<p>賛助会員を募り会費を募集する。 今年度については、専門的な講師による講演会を開催により賛助会員を確保し、将来的に安定的な収入を得るための基盤作りに取り組んでいきたい。 また、講座や講演会で収入を得られれば運営費や本の購入費に充てていく。</p>